

地域子育て支援における児童館の役割に関する研究(3) ー児童館のあり方と館長の役割ー

母子保健研究部	斉藤 進
客員研究員	小山 修
嘱託研究員	山口 忍（茨城県立医療大学保健医療学部）
	臺 有桂（横浜市立大学医学部）
	森川 洋（帝京平成大学現代ライフ学部）
	白子 純子
児童健全育成推進財団	阿南 健太郎
児童育成協会こどもの城	下村 一
佐倉市役所	牛玖 幸一
東村山市役所	鈴木 昌弘
世田谷区役所	山田 勝政
鎌ヶ谷市南児童センター	高橋 弘美
厚生労働省児童健全育成専門官	富安 健司

要 約

児童館長の役割を明確にし、館長ハンドブックの構成内容を作成すること、あわせて児童館の位置づけ等について検討することを目的に本研究を実施した。ハンドブックの構成は、児童館長のワークショップを開催し参加者が館長の役割を抽出・整理を行い、研究者がその結果を基に再検討し、役割の構造化を図った。ハンドブックは、①児童館の進むべき方向性を示す、②職場環境を整える、③事業の立案と管理、④安全管理・危機管理、⑤地域の社会資源をつなぐ、⑥課題のある子どもへの対応の五章にまとめられた。児童館の位置づけについては、父親へのグループインタビューと次世代育成支援行動計画（後期計画）からのキーワード抽出を用いた。児童館の位置づけは低かったが、父親は児童館をコミュニティ施設として期待している。

〔キーワード〕 児童館 館長の役割 ハンドブック 地域 コミュニティ施設

A study on the role of children's centers in community child-raising assistance (3) The nature of children's centers and the role of center directors

Susumu SAITO, Osamu OYAMA, Shinobu YAMAGUCHI,
Yuka DAI, Hiroshi MORIKAWA, Junko SHIRAKO, Kentaro ANAN
Hajime SHIMOMURA, Koichi USHIKU, Masahiro SUZUKI
Katsumasa YAMADA, Hiromi TAKAHASHI, Kenji TOMIYASU

[Abstract]

In order to clarify the role of directors of children's centers, this study prepared content for a center director's handbook and it examined the significance of children's centers. Handbook content originated from a workshop attended by center directors, who helped to identify and delineate the role of center directors. On that basis, the role of center directors was re-examined and structurally characterized. The handbook described: (1) the future direction for children's centers, (2) providing a work environment, (3) project planning and management, (4) safety and risk management, (5) connection of the community's social resources, and (6) coping with children with problems. The significance of children's centers was ascertained based on group interviews with fathers and identification of keywords in the Action Plan to provide Child-raising Assistance to Future Generations (later stage). Children's centers had limited significance, but fathers expected children's centers to serve as community facilities.

[Keywords] children's center, role of center directors, handbook, community, community facility

I. 目的

地域の子育て支援の充実を図るためには、児童の健全育成を目的に活動する児童館の活性化と強化が重要である。児童館活動の充実の鍵は児童館長が握っていることが、前年度までの研究で明らかになっている^{1), 2)}。そこで現場で活動している児童館長のワークショップによって、児童館長の役割を明確にし、館長ハンドブックの構成を検討することを第一の目的とした。また、あわせて子育て当事者（父親）へのグループインタビューおよび次世代育成支援行動計画（後期計画）における児童館の位置づけ分析により、児童館のあるべき姿を析出することを目的に研究を実施した。

II. 方法

1. 児童館長の役割

児童館長の役割については、児童館長のワークショップを開催し、参加者が館長の役割を抽出、整理を行い、研究者がその結果を基に再検討し、役割の構造化を行った。ワークショップは次のとおり開催し、その詳細は表1に示した。

- 日時：2月2日（木） 14:00～17:00
- 場所：日本子ども家庭総合研究所
- 対象：東京近郊の児童館に勤務する児童館長またはそれに準ずる立場にいる者 13名（表2）
- ワークショップの内容
 - ①新しい児童センター
 - ②児童館長の役割

ワークショップでは、館長の役割に関するキーワードや検討結果を記録として収集した。できるだけ発言の機会を多くするために、13人を3つのグループに分け、それぞれにグループファシリテーター、記録のためのスタッフを配置して実施した。ワークショップの分析については、まずは、ワークショップの参加者が児童館長の重要な役割として考えている項目について、ワークショップ②の中で「役割の順位付け」を行い1～8位に挙げた項目について整理した。さらに「新しい児童センターの開設」をテーマとしたワークショップ①で挙げられたキーワードや②「児童館長の役割」でのキーワードの順位とその理由として書かれた内容を加味して、研究チームでKJ法を用いて整理分析した。

これらの結果をもとに館長の役割について整理検討し、あわせて内容についてのキーワードを加え、ハンドブックの構成内容をまとめた。

2. 児童館のあり方

子育て世代の父親の児童館像については、子育て世代の父親による活動を行っている次の6団体（順不同）から1～2名の出席者を依頼し、グループインタビューを実施した。

- 子育て主夫ネットワーク レノンパパ
- 柏市児童センター 柏 Papa Shakehands
- 練馬イクメンパパプロジェクト（ねりパパ）
- おやじの部屋みたか組
- わこう子育てネットワークパパ組
- 新座子育てネットワークお父さん盛り上げ隊

当日はファシリテーターの進行による8名の父親（子ども4名も同席）でディスカッションを行い、インタビュー・テーマ「児童館のイメージ」、「児童館に期待する機能」についての意見を聴取した。ホワイトボードを使用し、意見

をファシリテーターが整理しながら意見交換を進め、意見をまとめた。あわせて児童館と連携した活動を展開している1団体について、活動中に面会、個々に意見を聴取し、児童館への期待や課題を抽出した。

児童館の位置づけについては、次世代育成支援対策推進法による地域行動計画（後期）（以下後期計画という）における児童館の位置づけを検討するために、計画書に記載されている「児童館」（児童センター）および「遊び」の出現頻度を計量し、「保育園」、「教育」との比較検討を実施した。後期計画については、インターネットを使用して、都道府県、政令指定都市等のホームページにある計画書をダウンロードした。PDF形式のファイルについて、文字認識可能なファイルは、ワード形式を経てテキスト形式のデータに変換、イメージ形式の場合は、OCR（光学文字認識）ソフトを使用し、テキスト化した。このテキストデータを使用して、内容分析（計量テキスト分析）ソフト「KH Coder」によりキーワードの出現頻度（文章単位）を計量した。

【倫理的配慮】

倫理的配慮として、本研究の実施に当たり日本子ども家庭総合研究所・研究倫理委員会の審査・承認を得た。児童館長のワークショップの実施に当たっては、文書ならびに口頭で研究目的、研究方法、分析方法を説明し、個人情報保護に配慮している旨を説明し、同意を得た。また、子育て当事者の父親へのインタビューについても、同様に説明して同意を得た。

III. 結果

1. 児童館長の役割

（1）児童館長の役割を考えるワークショップ

① キーワードの順位

順位付けされたキーワードを表3に示した。中項目のカテゴリでみると、「健全育成の理念、児童館の機能・役割」（1.3）が一位で、以下「児童館の進む方向性を示す」（2.2）、「人材育成、研修・教育」（2.4）、「企画、事業計画」（3.7）、「地域との関係づくり、ネットワーク」（3.9）、「職場環境、コミュニケーション」（4.3）、「危機管理」（4.4）、「地域のニーズ」（4.6）、「広報」（4.7）、「安全管理、安心・安全」（4.8）、「実行管理、判断・責任」（5.1）、「相談、子育て相談」（5.3）、「来館者対応」（5.5）、「苦情・クレーム対応」（5.6）、「ボランティア、活動・育成」（6.0）、「その他」（6.5）、「行政との連携」（6.7）、「課題のある子どもへの対応」（7.5）の順であった。

これらを上位の大項目で整理し、平均順位でみると、「指針・方向性」（1.8）が一位で、以下「職員・職場」（3.6）、「地域」（4.1）、「安全管理・危機管理」（4.6）、「広報」（4.7）、「企画・運営・管理」（4.9）、「苦情・クレーム対応」（5.6）、「その他」（6.0）、「相談機能・居場所」（6.2）、「行政との連携」（6.7）の順であった。

また最も多くの館長が挙げたキーワードは、「地域」（21項目）が最も多く、次に「企画・運営・管理」（20項目）と「職員・職場」（19項目）で、以下、「安全管理・危機管理」（11項目）、「指針・方向性」（9項目）、「相談機能・居場所」（5項目）、「苦情・クレーム対応」（5項目）、「その他」（4項目）、「行政との連携」（3項目）、「広報」（3項目）であった。これらのキーワード順位からみると、理論的な裏付けから実践技術へと体系的に構成されていることがわかる。

② キーワードの内容

内容を検討すると、なかでも「地域」については、「地域と児童館の関係をつくる」「地域に開かれた児童館づくり」「地域の委員会や行事への参加」などがあり、また全員が挙げている。あわせてこれらの項目をあげた理由をみると、地域という言葉は、地域の社会資源・人脈などをとらえており、児童館と地域の社会資源を結びつけることを重要な役割と認識していることが分かった。

次に多くあがっていた項目は、児童館の運営に関する戦略についてであり、「児童館の活動指針」「児童館の目標」「事業計画の立案」「運営目標」など企画に関することや、それを実施する上での「事業の進行管理」「予算の管理」「労務の改善」「ルールづくり」などを挙げ、またそれを適切に行うために、館長の資質的な要素として「責任」「的確な判断」「バランス感覚」などを挙げている。

3番目の「職員」に関するカテゴリでは、「人材育成」と「働きやすい職場環境の整備」を挙げている。「人材育成」については、「職員のスキルアップ」「職員へのスーパーバイズ」などが挙げられ、職員の資質向上のための指導や教育が児童館長の重要な役割と認識されている。「職場環境の整備」では、「職員間、もしくは職員と児童館長とのコミュニケーション」「職員間の調整」「職員のメンタルヘルス」について挙げており、児童館の職員がチームとして機能するように、特にコミュニケーションに気をつけながら、職場の雰囲気づくりに配慮していることが分かった。

また、児童館活動の基盤として考えられているのが、「安心」「安全」につながる「安全管理」「危機管理」についても約半数の館長があげており、重要な役割と考えられていることが分かる。

その他の内容では、地域や保護者との関係性、信頼関係が必要であり、更に一定以上の経験度が必要な、「クレーム」「苦情」「トラブル」に対する対応や、「子育て相談」「課題のある子どもへの対応」について、それぞれ半数以上の館長が挙げている。館長がベテランの児童厚生員としての役割も期待されていることが分かる。

③ KJ法による整理

研究者によるKJ法を用いて分析したものを図1に示した。館長の役割体系はでは、「健全育成の理念」から「児童館の進む方向性を示す」こと、これに基づいて、児童館運営の戦略を立てること、運営にあたっては、事業や活動の進行管理とあわせて、職員間のコミュニケーションを推進し、子育て相談や支援の必要な児童への対応も行うことが必要となっている。また、「地域のニーズ」と「地域ネットワークなど地域との関係づくり」もベースとして重要であることを示している。

キーワードでは、事業展開における「ふりかえり・フィードバック」がなく、「広報」や「遊び」についても不足していると思われる。これらについては、波線で囲み、追加し、位置づけを加えた。

(2) 児童館長ハンドブックの内容

児童館長ハンドブックの構成内容について、表4に示した。

児童館長ハンドブックの構成は、第1章として「児童館の進むべき方向性を示す」である。本章の内容を構成するキーワードは次のとおりである。

- 理念・児童館活動の基本方針の明文化
- 行動規範
- 職員・利用者への周知
- 地域ニーズの把握
- 利用者尊重
- 利用者の満足度

- 意見を述べやすい環境整備

以上のキーワードをもとに、①現在の子どもの育成環境、②現在の児童館の置かれている状況、③地域のニーズを把握する、の三つの内容から構成する。

第2章は「職場環境を整える」で、キーワードは次のとおりとし、①スタッフの人材育成、②スタッフ間のコミュニケーションを図る、の2節で構成する。

- 職員の意見をとり入れる具体的な取り組み
- 必要な人材・人員体制
- 人材の資質（児童との関わり）
- 状況を判断し、行動を決断する力
- 企画力
- 児童館職員としてふさわしい技術
- 保護者や住民への対応
- 仕事に対する意欲
- リーダーシップ
- 客観的な人事考課
- 教育・研修に関する基本方針
- 研修計画の評価・見直し
- 職員間での情報の共有
- 職場倫理

第3章は「事業の立案と管理」で、キーワードは次のとおりとし、①戦略を示す、②事業計画の管理、③財務・労務管理、④事業の振り返りと行政への提案、の4節で構成する。

- 中・長期計画を踏まえた事業計画
- 中・長期計画・収支計画の策定
- 組織的な計画策定
- 職員・利用者への周知
- 管理者としての責任とリーダーシップ
- 遵守すべき法令等の正しい理解
- 質の向上への意欲
- 評価・分析
- 経営・業務の効率化
- 社会福祉の動向把握
- 行政の担当部署との情報交換
- 外部監査
- 職員の就業状況
- プライバシー保護の規定
- 標準的な実施方法の文書化
- 定期的な検証
- 適切な記録
- 記録の管理体制

第4章は「安全管理・危機管理」で、キーワードは次のとおりとし、①安全管理、②危機管理、③トラブル・苦情への対応、の3節で構成する。

- 緊急時の体制
- リスクの把握
- 児童館固有の安全確保に関する事項
- 苦情解決の仕組み
- 利用者へのフィードバック
- 記録の作成
- 迅速な対応
- 定期的な評価
- リスクとハザード
- リスクとベネフィット
- コンプライアンス

第5章は「地域の社会資源をつなぐ」で、キーワードは次のとおりとし、①子どもの育ちに関する拠点としての機能、②ボランティアの育成、③情報の発信・児童館のPR、の3節で構成する。

- 地域への働きかけ

- アウトリーチ
- 地域社会の一員としての社会的役割
- 地域の情報の利用者への提供
- 児童館の持つ技術や情報を地域に還元
- 相談支援
- 印刷物
- 子どもの遊びや生活・子育てに関する情報
- ボランティアの受け入れの意義
- 担当者の設置
- ボランティア研修
- マニュアル
- 必要な社会資源
- 具体的な課題や事例検討
- 地域の福祉ニーズの把握

第6章は「課題のある子どもへの対応」で、キーワードは次のとおりとし、①相談、②虐待防止ネットワーク、の2節で構成する。

- 子どもの声に耳を傾ける
- 身近な相談
- 年長児童と乳幼児のふれあい事業

なお、付録として、①児童館ガイドラインと②研修プランとして、本研究で実施したワークショップのプログラムを掲載する。

(下村一、阿南健太郎、斉藤進)

2. 児童館のあり方

(1) 父親の児童館への期待

父親の児童館に対するイメージを表6にまとめた。全体的に「昭和」をイメージする。つまり、ベーゴマ、剣玉など昭和の時代の遊び(ゲーム)を体験する、あるいは実践する場所という捉え方で、プラスマイナスどちらでもないと感じていた。また、「来た人」あるいは「幼児と小学生」など限定された利用者へのみの施設というイメージを持っていた。

課題として、①中学生の居場所がない、②思春期世代への対応、③児童館OBの中高生ボランティアの活用、が挙げられていた。また、あわせて、それぞれの地域に応じた児童館の特徴を述べていたが、「男性スタッフの存在は効果が大きい」という意見もみられた。

父親が期待する機能は、①コミュニティ施設、②子育て、子育ての場、③ニーズに合わせた運営、④その他、であった。

コミュニティ施設としての機能では、まず「大人が一人で行ける場所」、「男(父親)同士のコミュニケーションのきっかけづくりの場」という父親にとって有用なこと、次に「大人とつながる場をつくる」、「中高生を含め多様な年齢層が集る場」という多様な世代が集まり、つながりを醸成する施設を期待していた。中高生を視野においた意見もあり、また、多様な世代という点から児童福祉施設の枠を超えた機能が期待されていることがわかった。

第2の「子育て、子育ての場」では、「父親の子育てする姿を見せる場」として位置づけており、また、花火、ボール遊びなどが可能な「規制でなく、自己責任で遊ぶ」ことができる場を期待していた。あわせて、中高生へのアプローチについて、現状としてハード面では不十分だがソフト面からのアプローチを期待していた。

第3の「運営」では、「役所のルールを超える工夫」や「ルールより効果を考えた運営」という意見がでており、地域住民や父親のニーズに柔軟に対応する姿勢が期待されていることが明らかであった。また、「児童館の姿がよく見えない」という意見から、事業のPR以外に児童館の広報を強化する必要性が示めされ、あわせてホームページ

や広報誌など発信力の強化、充実を求める意見もあった。

また、児童館長について、「悪い館長はいないが、優れた館長は少ない」という発言から「館長の温度差を超える工夫が必要」で、今後の児童館スタッフのあり方や館長の要件規定などの検討が必要であることが示唆された。

第4の「その他」では、「あたらしい人の居場所」になることや「フリーな場、空間として多様な人が参加できる雰囲気」が期待されており、あわせて「個別対応も必要、細やかな働きかけ」という意見から、父親を含めて地域の住民への働きかけやネットワークづくり、コミュニケーションスキルの向上への支援についての期待があった。

(2) 後期計画にみる児童館の位置づけ

児童館の位置づけを検討するために、まず後期計画の目次に「児童館」が出てくるかどうかを調査したが、データ収集した46都道府県、17政令市では全く記載されていなかった。東京都内の39自治体(16区20市3町)のうち、3自治体(1区2市)に記載が確認できた。

次に「児童館」(児童館・児童会館・児童センター)、「保育所」(保育所・保育園)、「児童クラブ」(放課後児童クラブ・学童クラブ・学童保育所)、「放課後教室」(放課後子ども教室)、「遊び」、「健全育成」、「教育」のキーワードを含む文の出現頻度(平均)をみると、教育(121.9回)が最も多く、次いで保育所(67.0回)であった。児童館(17.2回)と児童クラブ(16.1回)、健全育成(14.6回)、遊び(13.0回)、放課後教室(3.4回)は少なかった(表7、図2)。児童館と保育所について、都道府県、政令市、都内区市町別にみると、両者とも都道府県、政令市、都内区市町の順で、より住民に身近なサービスを実施する自治体の順に、具体的な記述が増加する傾向が見られた(表8)。

児童館を1として出現比を算出し、全体の平均をみると、保育所は9.0、つまり9倍出ていることを示しており、児童館に比べ保育所対策が大きなウェイトを占めていることが確認された。同様に、「遊び」と教育(16.5)、「健全育成」と教育(13.2)の比率でも教育の出現頻度が高く、「遊び」の位置づけが低かった。

Ⅲ. 考察

1. 館長の役割とハンドブック構成

キーワード順位では、「健全育成の理念、児童館の機能・役割」から「児童館の進む方向性を示す」を示すことが挙げられ、次いで「人材育成、研修・教育」であったことから、基本理念を押さえ、具体的な方向性を示すことの重要性が確認された。これは、児童館長として、児童の健全育成と児童館のあるべき姿を明確に持つことを意味しており、館長の養成にあたっては、外すことのできない内容と思われる。

次の重要な役割として、人材養成が挙げられていた。これは職員の研修参加、活動時の指導と、職員間のコミュニケーションを含めた職場内環境の整備を進めることが、事業や活動展開と同様に重要なことを示していると考えられる。

また、施設の「安全管理、安心・安全」(4.8)以上に順位が高い内容には、「地域との関係づくり、ネットワーク」

(3.9)「地域のニーズ」(4.6)であったことから、地域の児童福祉施設としての位置づけ、地域との関わりや連携の重要性が示唆されていると考えられる。内容では「地域」

(21項目)が最も多かったことから、児童館における地域対応や連携の重要性が窺える。このためには、日常的に地域の諸機関や住民と係わっていくことが重要であり、地域に関する項目のキーワード順位が高いことから考え

ても、重要な役割である。しかし、地域との信頼関係の構築には、時間を要すると考えられるため、館長になる前から、研修や日常活動におけるスキルアップが重要であると考えられる。

KJ 法による整理では、一般的に事業運営のサイクルとして、「ニーズの把握・調査」「企画・計画」「実行」そして「ふりかえり・フィードバック」、いわゆる評価が必要だと考えられる。しかし、今回のワークショップにおいて、「ふりかえり」「フィードバック」は、児童館長の役割としては挙げられていなかった。同様に、児童館活動で重要な位置を占めると考えられる活動の PR や広報、「遊び」の重要性を啓発する役割は、挙げられることはなかった。そこで、KJ 法によりまとめた役割体系図には、評価と健全育成の普及の項目を追加した。これらは、日常的に実施されている内容であること、あまりに当然の事柄なので、キーワードとして取り上げなかったものと推測される。

これらから、ハンドブックでは、①理念や児童館像を持つこと、②スタッフの人材養成や職場環境の整備、③地域との関わり、を必ず入れて構成することが必要と考えられる。

児童館ガイドライン³⁾では、「(1) 館長の職務」として次のように記載している。

児童館には館長を置き、主な職務は以下のとおりとする。

- ① 児童館の運営を統括する。
- ② 児童の遊びを指導する者（以下「児童厚生員」という）が業務を円滑に遂行できるように指導する。
- ③ 子育てを支援する人材や組織等との連携を図り、子育て環境の改善に努める。
- ④ 利用者からの苦情や要望への対応を行い、運営や活動内容の改善を図る。
- ⑤ 子育てに関する相談に応じ、必要な場合は関係機関と連携してその問題解決に努める。

本ハンドブックの項目は、これらの内容を含め、より詳しく体系的にまとめており、完成すれば、利便性が高い有用な資料になると思われる。

また児童館ガイドラインにおいて、地域の重要性が提起されており^{3, 4)}、児童館ガイドラインの文中のキーワードの出現頻度において、「地域」の出現回数は、36 回で明らかに地域を視野に入れた活動展開が必要であることを示している（表 5）。加えて、児童館の役割としての母親クラブなどの地域組織育成や連携が重要であり^{5, 6)}、この点についても本ハンドブックでは、第 5 章として地域の課題を独立して取り上げるなど地域とのネットワークづくり、地域組織と育成支援など重要性を提起しており、今後の児童館の強化・活性化に有効な資料となる。

（下村一、阿南健太郎、斉藤進）

2. 児童館への期待と今後のあり方

(1) 児童館はコミュニティ施設

父親の児童館に対するイメージは、全体的に「昭和」をイメージするといった世代の違いを感じるものの、プラスマイナスどちらでもないという印象を持っている点から、父親へのアプローチを強化することによって、今後の児童館のあり方を左右することになると考えられる。しかし、来所者や幼児、児童といった「特定の利用者」の施設とのイメージも持っており、そのことについて修正を働きかけていくことが必要と思われる。あわせて、課題として挙げられた、①中学生の居場所がない、②思春期世代への対応、③児童館 OB の中高生ボランティアの活用、については、中高生の居場所づくりなどの事業を一層強化することが

必要であると考えられる。

父親が期待する機能は、①コミュニティ施設、②子育て、子育ての場、③ニーズに合わせた運営であった。父親同士のコミュニケーションづくりや中高生を含めた多様な年齢層が集まれる場としての機能が期待されていることは、子どもを含めた地域住民の施設となること、地域づくりの中心となる必要がある。課題に出ていた中高生、思春期の子どもたちへのアプローチの強化とあわせて、より広範囲な人びとへの働きかけや活動が求められていると思われる。多様な世代が集まり、つながりを醸成する、現在の施設の枠を超えた機能が期待されている。そのためには、館長をはじめ、児童館スタッフのコミュニティワークのスキルアップが一層重要となると思われる。

「子育て、子育ての場」としての期待では、「父親の子育てする姿を見せる場」として位置づけており、また「規制でなく、自己責任で遊ぶ」ことができる場を期待していた。父親へのアプローチの重要性は、地域子育て支援拠点における父親へのアプローチの研究においてもその必要性が示されており⁷⁾、父親支援は今後の児童館活動の要となると考えられる。また、「男性スタッフの存在は効果が大きい」という意見もみられたことから、父親への支援において、男性スタッフの配置についても検討することが必要と考えられる。

また、中高生についてもソフト面だけでもアプローチを期待していることは、乳幼児から中高生までの子育て、子育ての場と考えていることを示しており、従って、児童館はトータルな子育ての場、相談や対応ができる機能を備えることが必要と考えられる。後期計画における児童館の位置づけは低かったが、父親の意見や子育て支援の面から考えれば、児童館の役割と期待は大きく、より活性の強化が求められている。

(2) 広報、情報発信力の強化

「児童館の姿がよく見えない」という意見があり、事業の PR ではなく、児童館や健全育成などの広報を強化する必要性が示唆されている。また、ホームページや広報誌など発信力の強化、充実を求める意見からも、今後の児童館機能に情報発信力を強化することが重要であると思われる。また、父親を児童館へ惹きつけ、父親を児童館活動に巻き込むこと、地域の組織、団体との連携を促進し、父親たちへ結びつけることも期待されている。活発なコミュニケーションが求められている。これらの第 1 歩は広報と PR、つまり情報発信である。ICT 社会に育つ親子への情報発信をどうするかが大きな課題と考えられる。

後期計画において、「児童館」と「保育所」比は 9.0、児童館に比べ保育所対策が大きなウェイトを占めていることが確認され、同様に「遊び」と教育は 16.5、「健全育成」と教育は 13.2 であり、教育の出現頻度が高く、「遊び」の位置づけが低かった。これらから、具体的な数値評価が難しい点で教育と同様と考えられる「遊び」や「健全育成」が、教育に比して低くなっていることを考えると、児童館の広報とあわせて「遊び」の重要性をアピールしていくことが重要だと思われる。また、後期計画では保育対策に比べ、児童館を含め健全育成の位置づけが低くなっていることから、子育て支援における「遊び」の重要性とその活動の中心となる児童館活動の重要性を関係機関にアピールすることが必要と考えられる。

(3) 館長の力量を高める

「運営」については、「役所のルールを超える工夫」や「ルールより効果を考えた運営」という意見があった。また、児童館長について、「悪い館長はいないが、優れた

館長は少ない」という発言から「館長の温度差を超える工夫が必要」で、これらを実施可能な力量のある館長の養成が重要である。今後の児童館スタッフのあり方や館長の要件規定などの検討が必要であることが示唆されている。これらは、児童館をより活性・強化するためには、館長の役割が重要であることを示しており、館長の研修体制や養成システムの整備が大きな課題と思われる。

IV. まとめ

児童館のあり方では、父親たちは子育て支援の場としてのみならず地域のコミュニティ施設として期待していること、また、児童館における広報など情報発信力の強化と力量のある館長が求められていることがわかった。しかし、後期計画における「児童館」や「遊び」、「健全育成」の位置づけは高くない。これからよりよい子育てを進めていくためには、児童館の積極的な設置・活用や児童館を中核とする健全育成政策をすすめることが必要である。あわせて、児童館長をはじめとするスタッフの研修や養成を図ることが必要である。

現場の児童館長によるワークショップに基づき館長ハンドブックの構成案を作成したが、児童館活動の柱である館長に必要な資料として、本ハンドブックは今後の児童館活動の強化と活性化に役立つと思われる。なお、児童館長ハンドブック（本文）は、構成案とキーワードに基づき執筆を進めており、本研究所ホームページにてPDF版を公

開する予定である。

【謝辞】

本調査研究にご協力いただいた関係者の方々に深謝します。

【文献】

1. 斉藤進他、子育て支援における児童館の役割に関する研究（2）－児童館運営と館長業務－、日本子ども家庭総合研究所紀要 第47集、2011、pp161-180
2. 斉藤進他、子育て支援における児童館の役割に関する研究（1）－児童館の現状と課題－、日本子ども家庭総合研究所紀要 第46集、2010、pp151-165
3. 児童館ガイドライン、児童館ガイドライン検討委員会、2011
4. 阿南健太郎、「児童館ガイドライン」を読み解くために、愛育ねっと（子ども家庭福祉情報提供事業）2011年11月1日、<http://www.aiikunet.jp/exposion/manuscript/3331.html>
5. 斉藤進他、子育て支援における母親クラブと児童館の役割に関する研究（2）、日本子ども家庭総合研究所紀要 第44集、2008、pp165-185
6. 斉藤進他、子育て支援における母親クラブと児童館の役割に関する研究（3）、日本子ども家庭総合研究所紀要 第45集、2009、pp171-193
7. 恒吉紀寿、第3章 今後の支援拠点における父親支援の視点、平成21年度児童関連サービス調査研究等事業「地域子育て支援拠点における父親支援に関する調査研究」報告書（主任研究者 恒吉紀寿）、こども未来財団、2010年3月

表1 児童館長を対象としたワークショップ

【ワークショップの目的】 昨年度までの研究で、子育て支援における児童館の役割を十分に機能させるためには、常駐の児童館長の存在が重要であることが示される。ただし、児童館長の役割については、児童福祉法や児童福祉施設最低基準など児童厚生施設に関する法律等や児童館のガイドラインにも明記されていない。そこで、児童館長の役割を考えるため、ワークショップを通じて、現役の児童館長の意識などを聞き取る。

【開催日時】 平成24年2月2日（木）14:00－17:00

【場所】 日本子ども家庭総合研究所

オリエンテーション	10分	概要説明
アイスブレイク	10分	アイスブレイクを兼ねて、グループ内で自己紹介するとともに、「今の児童館に大切にしていること」について1人2分で話す。
ワークショップ① 新しい児童センター	10分	「これまで児童館がなかった地域に、来年度、新設の児童センターができ、あなたが館長として赴任することになりました。この児童センターの事業計画を策定するにあたり、あなたはどんな手順で、何に留意して行いますか。」というテーマで、児童館開設までに館長として果たすべき役割について書き出す。
	30分	グループで共有
休憩	10分	休憩中に、各グループの模造紙を貼りだし、参加者に見てもらった。
ワークショップ② 児童館長の役割	10分	児童館長の役割として必要だと思われるものをできるだけたくさん書き出す。
	15分	グループで共有。
	5分	館長の役割のうち特に大切だと思うものを1～8位順位付けを行い、その理由を記入する。
	30分	共有と検討。個人で選んだ順位付けを共有し、その後グループで順位付けを行う。
	10分	発表・まとめ

表2 ワークショップの参加者

No	設置運営形態	役職	性別	No	設置運営形態	役職	性別
1	公設民営(株式会社)	館長	男	8	公設公営	館長	男
2	公設民営(NPO 法人)	副館長	女	9	公設公営	館長	女
3	公設民営(社会福祉法人)	館長	男	10	公設公営	館長	男
4	公設民営(事業団)	館長	女	11	公設公営	主査	男
5	公設民営(財団法人)	館長	男	12	公設公営	館長	男
6	公設公営	館長	男	13	公設民営(株式会社)	館長	女
7	公設公営	館長	男				

表3. [役割の順位付け]ワークショップで挙げられた児童館長の役割

地域			職員・職場			企画・運営・管理		
地域との関係づくり	験者	順位	職場環境	験者	順位	実行管理	験者	順位
ネットワーク		3.9	コミュニケーション		4.3	判断・責任		5.1
地域との連携協力	A	6	働きやすい環境づくり	D	8	意思決定	C	1
近隣教育機関との連携	A	7	職員の生活	E	3	管理運営の適正化	C	7
社会資源や人との関係づくり	B	4	職員とのコミュニケーション	E	8	業務改善	D	7
地域との連携	C	5	館の円滑運営	G	1	事業の進行管理を図る	F	5
地域関係団体との調整	D	6	職員のメンタルヘルス	G	6	バランス感覚	F	7
地域に開かれた館づくり	E	2	職員に信頼される言動	H	1	館運営の統括	G	2
地域の連携を図る	F	2	職員間の調整・育成を図る	I	3	的確に判断する	H	3
地域・他機関との連携	G	3	職員間の調整能力	J	3	事務処理を正確に実施	H	4
対外的な関係の積極的構築	H	2	職員の調整	K	2	責任をとる	H	5
地域・地域の関係機関との関係	I	2	職場の雰囲気づくり	L	8	事業計画の最終的な決定	I	6
他機関と利用者をつなぐ	I	7	人材育成	験者	順位	財務処理	I	8
他機関との連携	J	3	研修・教育		2.4	運営計画の執行管理	J	2
地域連携	K	3	職員のスキルアップ	A	3	客観的・冷静な判断	J	6
地域の行事・委員会への参加	K	7	職員の児童・教育	B	3	ハード面の管理	J	8
地域との完結づくり	L	3	人材育成	C	2	事業展開の決定	K	1
地域とのコミュニケーション	M	1	職員の育成・指導	D	3	財務管理	L	6
地域のニーズ	験者	順位	人材の育成	E	1	事務処理	M	8
情報の収集と提供	C	4	人材を育成する	F	1	企画	験者	順位
行政・地域のニーズ	D	1	人材育成	L	4	事業計画		3.7
利用者のアイデア実現	E	7	職員管理(育成)の徹底	M	2	年間事業計画の策定	A	4
情報収集を図る	F	6	ボランティア	験者	順位	時代・地域を見極めた事業計画	B	2
利用者の把握	L	5	活動・育成		6.0	企画力	M	5
			ボランティアの育成	M	6			

安全管理・危機管理

安全管理	験者	順位
安心・安全	者	4.8
来館児童の安全確保	A	1
安全管理	E	5
職員・利用者の安全管理	G	7
施設の安全管理	G	8
安全管理	K	5
安全管理の徹底	M	3
危機管理	験者	4.4
危機管理	B	5
危機管理	D	4
トラブル処理の要・危機管理	I	4
危機管理	L	2
トラブル対応	L	7

指針・方向性

児童館の進む	験者	順位
方向性を示す	者	2.2
運営戦略・戦術	A	2
目指すところを示す	B	1
戦略を練る	C	3
運営目標・指針の明確化	J	1
目標・指針	M	4
健全育成の理念	験者	順位
児童館の機能・役割	者	1.3
理念・方向性を示す	C	2
理念・戦略を持つ	F	1
理念・理想を語る	I	1
理想の児童館像を示す	L	1

相談機能・居場所

相談	験者	順位
子育て相談	者	5.3
相談を受ける	B	7
相談・クレーム処理	E	4
子育て相談対応	G	5
課題のある子どもへの対応		順位
		7.5
問題行動児・非虐待児の把握	A	8
不登校の子どもの相談	M	7

苦情・クレーム対応

苦情・クレーム対応	験者	順位
苦情に対応	B	8
苦情・相談対応	D	5
苦情の対応処理	G	4
苦情・要望対応	J	7
クレーム・事故対応	K	4

行政との連携

行政との連携	験者	順位
行政との連携確保	C	8
行政への報告・交渉	E	6
行政	K	6

広報

広報	験者	順位
事業を発信	F	3
広報マン	I	5
広報・情報提供	B	6

その他

来館者対応	験者	順位
来館者対応	者	5.5
児童への指導・躾	A	5
利用児童・保護者との対応	C	6
その他	験者	順位
	者	6.5
ソーシャルワークの技能	J	5
問題意識を持つ	K	8

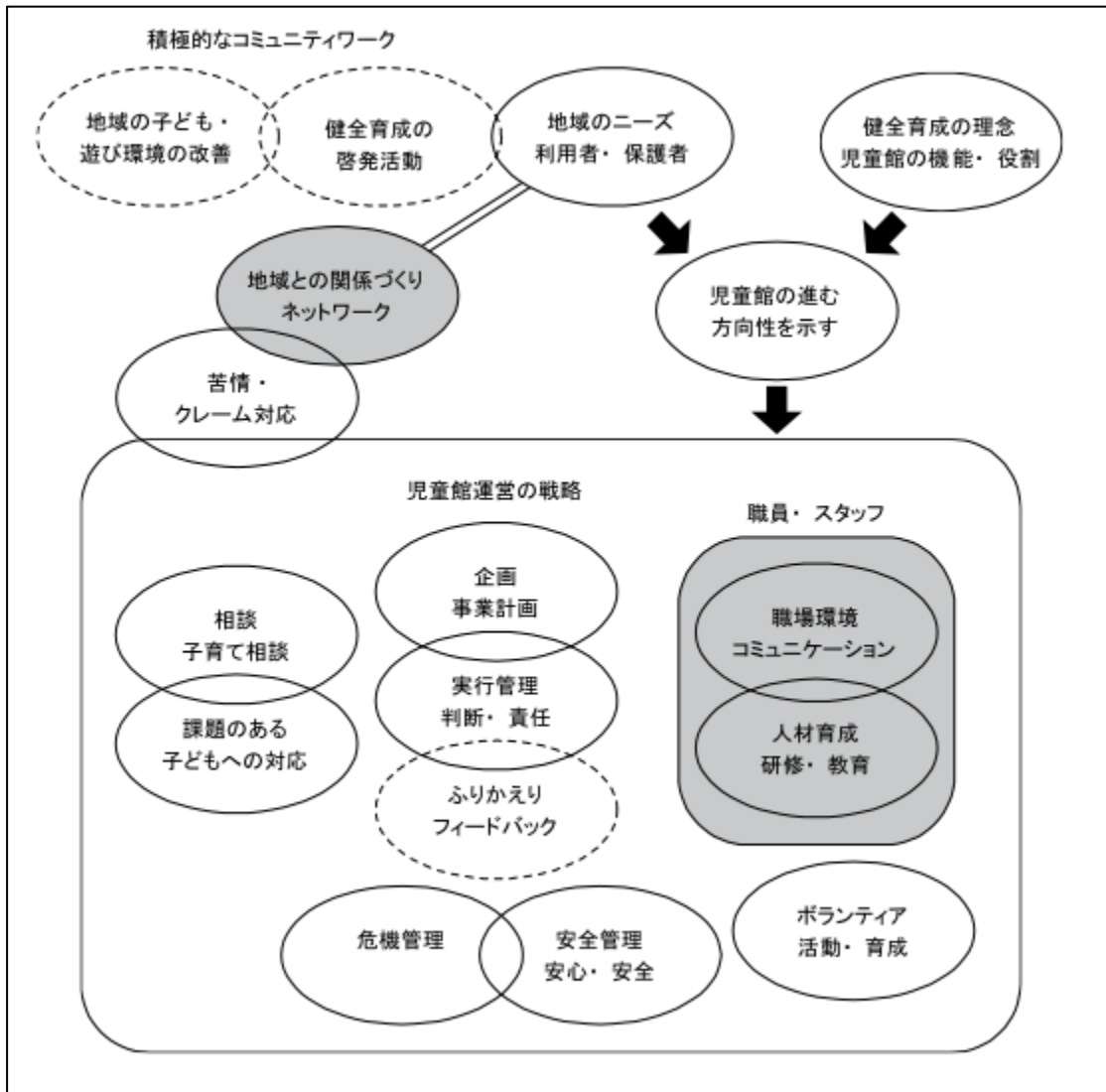


図1 児童館長の役割体系(研究者によるKJ法でまとめたもの)

表4 ハンドブックの項目

児童館長ハンドブック 構成案	
第1章 児童館の進むべき方向性を示す	第4章 安全管理・危機管理
第1節 現在の子どもの成育環境	第1節 安全管理
第2節 現在の児童館の置かれている状況	第2節 危機管理
第3節 地域のニーズを把握する	第3節 トラブル・苦情への対応
第2章 職場環境を整える	第5章 地域の社会資源をつなぐ
第1節 スタッフの人材育成	第1節 子どもの育ちに関する拠点としての機能
第2節 スタッフ間のコミュニケーションを図る	第2節 ボランティアの育成
	第3節 情報の発信・児童館のPR
第3章 事業の立案と管理	第6章 課題のある子どもへの対応
第1節 戦略を示す	第1節 相談
第2節 事業計画の管理	第2節 虐待防止ネットワーク
第3節 財務・労務管理	
第4節 事業の振り返りと行政への提案	付録
	1. ガイドライン
	2. 研修プラン（ワークショップのプログラム）

表5 キーワード「地域」の出現回数

児童館ガイドラインの頻出キーワード(10回以上)					
名詞		サ変名詞		形容動詞	
児童	84	活動	44	必要	18
子ども	67	運営	24	安全	14
地域	36	支援	22		
家庭	13	子育て	18		
遊び	13	対応	18		
環境	12	保護	17		
職員	12	育成	14		
クラブ	11	関係	14		
		配慮	14		
		連携	14		
		援助	12		
		協力	12		

表 6 父親の児童館のイメージと期待

【児童館のイメージ】	【期待する機能】
1 全体 - 昭和のイメージ←ペーゴマ、剣玉、etc。平成は PC、ITC、ゲーム - 来た人のみ利用するイメージ - 幼児と小学生限定の利用施設か - 近い場所,身近な所 - プラスマイナスではマイナスなし 2 課題 - 中学生の居場所がない - 思春期世代への対応 - 児童館 OB の中高生ボランティアは有効 - ゲーム、本など個人所有のものの持ち込み規制の有無 - 空間はみんなが集まる場 3 その他 - 男性スタッフの存在は効果が大きい - 社会教育施設併設では、自由度が高く、利便性が高い - NPO 運営で利用者増加	1 コミュニティ施設 - 大人が一人で行ける場所 - 男（父親）同士のコミュニケーションのきっかけづくりの場 - 大人とつながる場をつくる - 中高生を含め多様な年齢層が集る場 2 子育て、子育ての場 - 父親の子育てする姿を見せる場 - 規制でなく、自己責任での利用（花火、ボール遊びなども可能） - 中高生へのアプローチの充実（ハード面では不足でもソフト面から） 3 運営 - 館長の温度差を超える工夫（悪い館長はいないが、優れた館長は少ない） - 広報の工夫、よく見えない、発信力の不足 - 役所のルールを超える工夫 - ルールより効果を考えた運営 4 その他 - 自己紹介の場がある児童館がよい - コミュニケーションスキル、男女差はない、スキルアップを図ることが必要 - 世代間コミュニケーションも難がある

表 7 キーワード出現頻度(文数)と比率

	平均値	標準偏差	最小値	最大値
児童館	17.2	22.0	0	152
保育所	67.0	54.4	4	361
児童クラブ	16.1	19.6	0	128
放課後教室	3.4	3.4	0	11
保育所(比)	9.0	13.5	.5	94.0
児童クラブ(比)	2.2	2.7	.0	14.0
放課後教室(比)	.7	1.1	.0	5.5
遊び	13.0	13.9	0	104
健全育成	14.6	12.4	0	66
教育	121.9	78.5	1	421
教育(比)1	16.5	21.8	1.0	168.0
教育(比)2	13.2	12.9	.2	80.5

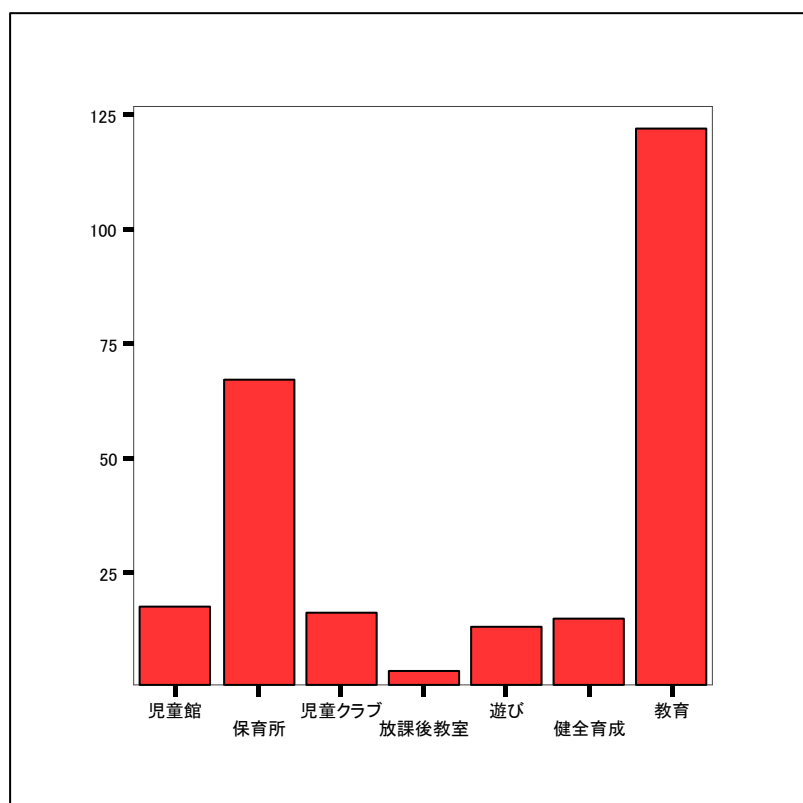


図2 キーワードの平均出現数

表8 自治体区分別キーワード出現頻度(文数)と比率

			平均値	標準偏差	最小値	最大値
都道府県	児童館	児童館	7.6	6.1	0	23
		保育所	48.7	35.5	10	202
		児童クラブ	12.3	8.9	0	40
		放課後教室	4.0	3.4	0	11
		保育所(比)	10.6	10.3	1.1	40.4
		児童クラブ(比)	2.8	2.8	.1	12.5
		放課後教室(比)	1.1	1.4	.1	5.5
		遊び	12.2	15.8	0	104
		健全育成	13.9	10.2	1	42
		教育	134.5	73.0	12	285
		教育(比)1	19.7	27.0	2.3	168.0
		教育(比)2	14.6	14.4	3.1	80.5
政令市	児童館	児童館	17.7	19.8	0	58
		保育所	83.2	62.8	11	262
		児童クラブ	12.3	18.7	0	64
		放課後教室	2.0	2.4	0	6
		保育所(比)	6.5	6.2	1.4	21.8
		児童クラブ(比)	2.0	2.2	.0	5.3
		放課後教室(比)	.4	.4	.0	1.0
		遊び	19.8	11.5	5	42
		健全育成	21.3	17.9	0	66
		教育	148.0	88.6	19	365
		教育(比)1	8.9	5.6	1.4	23.8
		教育(比)2	12.9	13.9	2.2	57.0
都下市区町	児童館	児童館	28.2	28.9	0	152
		保育所	81.4	62.9	4	361
		児童クラブ	22.2	26.7	0	128
		放課後教室	3.4	3.5	0	11
		保育所(比)	8.0	18.4	.5	94.0
		児童クラブ(比)	1.4	2.5	.1	14.0
		放課後教室(比)	.2	.2	.0	.5
		遊び	11.1	11.6	0	51
		健全育成	12.5	11.2	0	49
		教育	96.0	74.8	1	421
		教育(比)1	16.0	18.9	1.0	108.0
		教育(比)2	11.8	10.4	.2	50.0